

「はなやか関西シンボルマーク」のご紹介

関西経済連合会(関経連)は関西地域(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県の10府県)をPRする「はなやか関西シンボルマーク」を策定し、関西広域のインバウンド促進に向けて積極的に活用しています。花卉に関西10府県の「はなやか」を象徴する要素をデザインし、関西の持つ豊かかつ多様性に満ちた魅力を表しています。みなさまもぜひ、関西地域のPRに「はなやか関西シンボルマーク」をご活用ください。



(「はなやか関西シンボルマーク」使用は、関西経済連合会への申請が必要です)

▶詳細はこちら <http://www.kankeiren.or.jp/hanayakakansai.html>

表紙について

新年度 研究プロジェクトのリサーチリーダーを務めるAPIR所員・研究員の登場です。APIRの研究が、アジア太平洋地域の羅針盤となり、光輝く未来へと導くイメージを表現してみました。



1. 木下 祐輔 研究員
2. 山下かおり 総括調査役 兼 プロジェクトリーダー
3. 林 万平 研究員
4. James Brady 研究員

活動状況

2015年1月-3月

- 1月23日 関西労働研究会
- 1月29日 「中小企業の東南アジア進出に関する比較研究」第3回研究会
- 1月29日 財務省大臣官房審議官(理財局担当) 藤城眞氏ご来訪
- 1月31日 「日本の対アジア太平洋外交政策と通商政策のあり方」第4回研究会
- 2月 5日 第53回関西財界セミナーに宮原所長、澤副所長、稲田センター長が参加
- 2月12日 米内閣省日本部経済ユニットチーフ ノア・ザーリング氏他との懇談会
- 2月16日 (一社)不動産協会関西支部にて稲田センター長が講演
- 2月18日 在日カナダ大使館参事官兼経済・金融部長スチュワート・カー氏との懇談会
- 2月19日 近畿地方整備局港湾空港部長 稲田雅裕氏他ご来訪(関西の将来ビジョンに関するインタビュー)
- 2月20日 「関西における21世紀型ツーリズム構築」第2回研究会
- 2月25日 第3回マクロ経済分析プロジェクト研究会
- 2月26日 「第103回景気分析と予測」、「関西エコノミックサイトNo.25」記者発表
- 2月27日 インターンシップ生報告会「関西への中国人観光客を増加するための調査研究」(グローバル人材活用運営協議会実施事業の一環)
- 2月27日 Japanese Corporate Management 日本企業を理解するセミナー(「高度外国人材受入促進のための実践的研究」の一環)
- 2月27日 関西労働研究会
- 3月 2日 「日系企業のアジア地域のサプライチェーンのあり方」第4回研究会
- 3月 4日 ミャンマー開発資源協会(MDRI)他との意見交換会



▶3月4日 ミャンマー開発資源協会(MDRI)他との意見交換会

- 3月18日 「原子力の将来を考える」シンポジウム(関西経済連合会との共催)
- 3月24日 駐大阪・神戸米総領事アレン・グリーンバーグ氏との懇談会
- 3月27日 関西労働研究会
- 3月30日 「東アジアにおける持続可能性のある高齢化社会構築のための方策」第2回研究会
- 3月30日 「中小企業等のイノベーションの原動力」第3回研究会
- 3月31日 平成26年度 通常理事会
- 3月31日 豪州大使館公使・参事官(財務・経済担当)ケイト・フィップス氏へのブリーフィング



▶3月24日 駐大阪・神戸米総領事アレン・グリーンバーグ氏との懇談会

【APIR Commentary】詳細はホームページへ。

- 1月 9日 No.36「CQM予測(1月2日)は連銀の迅速な政策金利の引き上げを示唆」熊坂侑三氏
- 2月16日 No.37「頑張っている日本の壮年層」林敏彦
- 3月 9日 No.38「ビケティさん、大事な事は事実と国民の許容度ですよ」林敏彦
- 3月16日 No.39「アベノミクスとオバマノミクス」林敏彦
- 3月23日 No.40「地方創生と地域経済格差」林敏彦

【APIR Trend Watch】詳細はホームページへ。

- 1月23日 No.21「訪日外国人の消費による関西各府県への経済効果」稲田義久
- 2月25日 No.22「オリンピックブームと観光戦略」森剛志氏
- 3月16日 No.23「ドイツにみる中小企業の海外展開支援」大野泉氏
- 3月20日 No.24「関西の実質賃金上昇は2015年度から」木下祐輔

編集後記

機関誌3号編集集中のある日のオフィス。私の目の前の席には短期インターンの中国人留学生 李さんと古さんが座っていて中国語で話しています。ふと目を転じると、アルバイトのオーストラリア人留学生 Nealeさんが『関西経済白書』の英訳にいそんでいます。さらに視線を伸ばすと、研究員のブースにはアイルランド出身のBrady研究員がいます。当たり前のことですが、みんな若い。林 敏彦 研究統括の巻頭言

にもあるように、いつの間にかAPIRには様々な国籍の若者が集まるようになりました。

この流れを継続させ、発展させること一来てくれた彼・彼女たちとの関係を継続し、また、後に続く人々を積極的に受け入れていくこうした「良き循環」をつくりだすことが、APIRが多様な人が集まる魅力ある研究所となるために必要なことでしょう。(真鍋)

APIR Now No.3/2015年4月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之
(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(大阪大学 元総長)
理事・副所長・事務局長: 澤 昭裕(21世紀政策研究所研究主幹)
代表理事: 岩城吉信
研究統括: 林 敏彦(大阪大学名誉教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)
アドバイザー: 猪木武徳(青山学院大学特任教授) / 鷲田清一(京都市立芸術大学 理事長・学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ホームページ <http://www.apir.or.jp>

【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 岩城吉信
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)

本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!

APIR Now

新年度の事業計画を特集

アジア太平洋の未来への
明確な指針と
なるために

巻頭言

林 敏彦 アジア太平洋研究所 研究統括

Research Project

平成27年度 事業計画

Economic Forecast

- ゆるやかな回復基調にある関西
- 「若年女性の就労支援策・子育て支援策と女子の人口移動」の概要

Topics

- 「日本企業を理解するセミナー」を開催しました。
- 第53回 関西財界セミナーに参加しました。
- 研究員だより

Information



APIR

社会に役立つ研究を、面白く発信したい

真に独立したシンクタンクとして、アジアにまたがる多種多様な研究テーマを追求するAPIR。第3号の巻頭インタビューでは、林 敏彦 研究統括に「APIRの目指す研究」について聞きました。阪神・淡路大震災によって研究姿勢が変わった林 研究統括。研究者は常に社会と関わり、社会に役立つ研究を心がけること、そして、研究成果をわかりやすく、面白く、社会に伝える努力を怠るな、と説きます。

震災が私の研究姿勢を変えた

50代の初め、一家で阪神・淡路大震災を経験しました。ライフラインが途絶え、大阪に避難しようと電車の駅に向かいましたが、道の両側は潰れた家に崩れたブロック塀…。ようやく駅にたどり着いて大阪に出たら、震災の被害が神戸ほどではなく、普通の生活が営まれていました。あのギャップは衝撃的でしたね。

しばらく避難生活を送っていたものの、もう神戸の家には住めないで、大阪北部にアパートを借りて転居。そ

こでは、地域の方々に本当に良くしてもらった。スーパーではレジのお姉さんがさりげなくおまけしてくれたし、中2の息子は学用品がいっぱい詰まった袋を学校でもらって来ました。「日本人は優しい」、そう骨身にしみました。

私は経済学者です。震災に遭うまでは、データを駆使して市場経済などを分析してきました。でも経済学の基本、つまり無機質なデータが「人間そのもの」だと気づいたとき、私の研究姿勢は変わりました。経済成長率の背後にも失業率の背後にも、すべて人間がいる。しかし経験を積んだ経済学者ほど、

そのことを忘れて、現実や人間から離れた研究に没頭して社会を分かった気になっている。それをこの震災で思い知らされたのです。

学問と社会が近い。それが関西

災害が起きると、普段は表に出ていない人の優しさ、絆、つながりといった「社会の底にあるユートピア」が見えてきます。復興が進むにつれ、それはまた見えなくなるのですが、消失しはしません。確かに存在しています。

ユートピアを見た者としてやるべきことがあるとしたら、それは、災害のな

い平時にこそ、それを少しでも顕在化させ、どんな社会を築くかを考えること。そして、社会保障、老人ケア、地域の経済発展などに活かしていくことだと思います。

私が専門とする経済学は、細分化された学問です。財政学、金融論、国際経済など、自分の専門以外は知らないのが研究者の常です。ですが災害時には「ぼく、専門しか知りません」では済まない。専門以外の知識を総動員して知恵を出し合うのが、研究者のあるべき姿です。

思うに、関西にはそうした研究者が多いように感じます。つまり、学問と社会が近いのです。「権威を持って通説を語るのが関東の学者」というジョークがありますが、関東以北には、学問は学問、社会は社会という分断意識が強い気がします。でも関西は違う。学問が生活の中に入り込み、密着しているのです。

日本はアジアの一部という発想が日本・関西経済の究極の救済策

人にとって最もつらいのは、先が見えないことです。そんなときこそ研究者は、将来像を分かりやすく示し、人々に勇気を与える必要があります。でも、まだまだ足りていないのではないのでしょうか。

私は研究を「社会の先を照らす光明」にすることが重要だと考えています。例えば被災地は、将来日本が直面する人口減少社会を先取りしているとと言えます。死亡者や人口流出によって、地域の人口が減っているからです。つまり、震災後の社会を研究すれば、人口減少社会で何が問題となるのか分かるのです。

人口減の問題を受け、日本も移民を受け入れて人口を増やせばいい、という議論があります。でも私は、もはや

国境線を引いて物事をとらえる時代ではないと思っています。私はよく子どもたちに「きつねうどん」の話をしていました。油揚げの大豆はアメリカ産、うどんの小麦粉はオーストラリア産。もう日本独自の食べ物とは言え



せんよね。要するに、あのどんぶり一杯の中に世界が詰まっているんです。鎖国的に国内だけで完結しているものなんて、もう一つもありません。

だからこそ、日本からアジアに出ていき、ビジネスや国際理解を海外に広げていくことが重要なのです。そして、現地で技術継承を行い、各国で尊敬を獲得しながら生きていくのが、日本・関西経済の究極の救済策だと思います。

人口減によって、日本列島に暮らす人はこれから減るでしょう。しかし、日本の審美眼、価値観といった遺伝子は、アジア各国で生き残る可能性が高い。アジアの繁栄を我がものにするのではなく、日本はアジアの一部であり、ともに発展するという発想が必要ではないでしょうか。

研究者を飛躍させる出会いと交流がAPIRにはある

APIRは、若手研究者にとって素晴らしい環境です。社会と研究所が乖離していないからです。大学にいたら研究室で一人データと格闘するだけかもしれませんが、ここにいれば企業の人と話ができるし、イベントをやるときは一般の人とも交流できます。中国、韓国、フィリピンといった外国人インターンも所内にいます。そうした環境の中では、自分のやっていることが現実と絶えず付き合わされる。研究に興味があるかどうかを常に意識できる

んです。

APIRは、アカデミズムに偏らないし、ジャーナリズムやビジネス、行政とも適度な距離を保つ独立した研究機関を目指しています。関西の「本音をストレートに言う」という気風も手伝い、とても自由な研究ムードが醸成されています。この絶好の環境を活用し、現場を踏み、人と会い、いろいろな経験を積んで飛躍してほしいですね。

コンサートのような研究プレゼン

また、研究成果を一般に知ってもらうために、コンサート型の研究発表をしていきたいと考えています。コンサートは、聞く人を喜ばせるために開かれるもの。ピアノの発表会のように、お稽古の成果を披露するものとは違います。研究発表にも、人の心を震わせるコンサートの感動、エンターテインメント性が必要です。つまり、研究者は知的エンターテインメントのパフォーマーであるべきなのです。

私が尊敬する数理経済学の大家・森嶋通夫先生は、「一般の人が関心を持たない研究に、三文の値打ちなし」と言いました。まさにその通り。APIRは、決して社会と乖離することなく、社会の先を照らしながら、難しいことほど面白く発信する研究所でありたいと思っています。



はやし としひこ
林 敏彦

一般財団法人 アジア太平洋研究所
研究統括

京都大学経済学部卒業。スタンフォード大学Ph.D.。大阪大学経済学部教授、大阪大学大学院国際公共政策研究科教授、スタンフォード日本センター理事長、放送大学教授、同志社大学政策学部教授等を経て、2011年12月よりアジア太平洋研究所研究統括。大阪大学名誉教授。主な著作『大恐慌のアメリカ』（岩波新書、1988年）、『需要と供給の世界』（日本評論社、1989年）、『経済学入門』（放送大学教育振興会、2004年）、『世界の中の日本』（放送大学教育振興会、2009年）、『大災害の経済学』（PHP新書、2011年）、他多数。

平成27年度 事業計画

— 設立から3年、さらなる飛躍を目指して —

APIRのミッション

アジア太平洋地域が直面している諸問題に対して課題解決型の研究調査で知的貢献し、日本・アジア太平洋地域の新たな活力創出、持続的な発展に寄与することを目指して活動しています。



宮原 秀夫 (APIR 所長)



澤 昭裕 (APIR 副所長・事務局長)

APIRの研究内容 ～3つをバランスよく～

- 政策立案やビジネス戦略策定に際して、理論的・実証的な裏付けを与える研究
- 将来に向けた予測、課題提起、政策提言のための事前蓄積となる研究
- 研究成果やデータが公共財や研究インフラとなる研究

平成27年度の基本方針

シンクタンクは「研究」「広報」「人材」「財政基盤」の4要素が循環して発展していきます。平成27年度のAPIRは、4要素に応じた活動を実行してミッション達成に挑みます。



あらゆる活動に、うめきた・ナレッジキャピタルの立地アドバンテージ・知的交流機能を最大限に活用

2 関西の成長牽引産業

人口減少・高齢化社会の只中にある関西経済の長期低迷を打破する有望産業群に関する調査研究を行い、新たな成長戦略策定や問題提起に役立てる。

- 1 訪日外国人の関西への取り込み戦略と関西経済の活性化
- 2 関西における先端医療の動向及び人口動態を踏まえた医療産業の経済評価
- 3 日本の農業に関する貿易志向型の将来へ向けた道筋
—国内農業生産量の最大化と貿易拡大のためのイノベーション—
- 4 関西における女性就業率の拡大に向けた提言



リサーチリーダー／首席研究員
森 剛志氏 (甲南大学 教授)



リサーチリーダー
木下 祐輔 (APIR 研究員)



リサーチリーダー
James Brady (APIR 研究員)



リサーチリーダー／首席研究員
前田 正子氏 (甲南大学 教授)

3 経済予測とソリューションの提供

APIRの独自予測・分析手法やデータベース活用による時宜に適った経済予測情報の提供や、独自応用分析モデルを駆使し、自治体や経済界の諸問題に対するソリューションを提供する。

- 1 経済の定点観測と予測
- 2 新しいマクロ経済モデルの開発・応用試行
- 3 関西独自の景気指標の開発と積極的な活用
- 4 交通網の整備・拡充に伴う交通近接性の改善と期待できる経済効果の予測



リサーチリーダー
稲田 義久 (APIR センター長)



リサーチリーダー／副主任研究員
岡野 光洋氏 (大阪学院大学 講師)



リサーチリーダー／首席研究員
豊原 法彦氏 (関西学院大学 教授)



リサーチリーダー／首席研究員
後藤 孝夫氏 (近畿大学 准教授)

上記以外の分野や、社会情勢の変化に応じた機動的対応も含め、研究調査等を適宜設定し実施する。

その他

- 1 うめきた研究会
- 2 高度外国人材受入促進のための実践的研究
- 3 東京一極集中の是正と地方における大学のあり方に関する調査研究 (関西経済連合会との共同研究)

※研究調査・テーマは追加・変更する可能性があります。

1 アジア太平洋地域の制度インフラとリスク分析

アジア太平洋地域における様々な制度インフラやリスクに関する課題について調査研究することにより、企業を含む多様なステークホルダーの活動に資する。

- 1 アジア太平洋地域の政治・経済的協力のあり方
- 2 日本、フィリピン、タイにおける災害復興のあり方
- 3 共創型の海外展開支援ネットワーク



リサーチリーダー／首席研究員
木村 福成氏 (慶應義塾大学 教授)



リサーチリーダー
林 万平 (APIR 研究員)



首席研究員
大野 泉氏 (政策研究大学院大学 教授)



主な関連事業のご紹介

『関西経済白書』の刊行

『関西経済白書』及び日本語版白書をベースにした『英語版関西経済白書』を引続き刊行し、海外要人、海外研究機関等を含む外部に研究成果を発信します。

2014年版関西経済白書



APIRシンポジウム、APIRフォーラムの開催

人材育成・活用をテーマにしたシンポジウム、研究成果を活用したフォーラムを開催予定です。

立命館アジア太平洋大学との連携協定調印イベント(2014年5月開催)



事業報告会(兼 関西経済白書発表会)の開催

会員企業・関連団体・有識者等を対象に、APIRの事業全般への理解向上を図ります。

2014年度事業報告・白書発表会 (2014年9月開催)



第103回 景気分析と予測／関西エコノミックインサイト No.25

ゆるやかな回復基調にある関西

APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長: 稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・米国経済そして関西経済の予測と分析を定期的に行っています。



2015年度の経済成長
全国1.9%、関西2.0%

2月26日発表の予測は以下の通り。

(単位%)	2014年度	2015年度	2016年度
全国GDP	-0.9	1.9	2.1
関西GRP	-0.4	2.0	2.1

「訪日客による消費底上げ」と
「中小企業の賃上げ」がカギ

2014年10-12月期の関西経済はゆるやかな回復の動きを継続。特に企業部門は生産・投資計画ともに全国を上回る水準で推移、足下の景況感も回復、輸出も堅調に推移している。しかし先行き見通しは不透明感を

伴っており所得環境・雇用環境への大幅改善には至らず、家計部門の動向は全国並みにとどまる。

今後の関西経済回復を着実にするためには企業部門から家計部門への還元とそれに伴う民間消費拡大が重要。それには訪日客による消費底上げと中小企業の賃上げがカギとなる。

シミュレーション 訪日客の関西経済への影響
～「2020年800万人」を目指せばどうなる?～

政府の数値目標「2020年に訪日客2000万人」に対して関西経済連合会では訪日客の関西訪問率を現在の約33%から40%に伸ばして20年800万人を目指すとしています。これが達成された場合の15・16年度の関西経済への影響を、ケース1(20年度までに徐々に達成)、ケース2(20年度目標を16年度に前倒しで達成)の2ケースで計測しました。

GRPへの影響でみると…

ケース1:15年度 579億円/16年度704億円の拡大、
ケース2:15年度2,598億円/16年度4,645億円の拡大。

GRP比では…

ケース1:0.1%弱の上昇、
ケース2:0.3～0.5%の上昇
となり、一定規模で経済に影響をもたらすことがわかりません。訪日客の市場の伸びを逃すことのないよう関西一丸による広域観光振興の推進が求められます。

詳細はこちら

経済予測: Quarterly Report(日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>
経済予測: Quarterly Report(関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>



足立 泰美氏 (甲南大学 准教授)

2014年度 第3回マクロ研ゲスト講演(2月25日開催)

「若年女性の就労支援策・子育て支援策と女子の人口移動

—『今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議』を踏まえて—の概要

「マクロ経済分析プロジェクト研究会」(マクロ研)は、会員企業・団体メンバーとの足下の景況感やトピックス等の情報交換により、APIRの経済分析の参考にするとともに参加メンバーの自己研鑽を図るもので、約40年の歴史があります。

APIRでは、人口減少や関西の女性の就業率向上を重要な研究テーマととらえており、今回は「今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議」委員 足立泰美 甲南大学准教授

をゲスト講師にお迎えしました。(以下、講演概要)

データから見る
神戸市の若年女性の現状

神戸市は全国平均と比べると女性の就業率・出生率ともに低い傾向にあります。こうした現状に危機感を持ち、神戸市の女性を出生年代ごと・区ごとに細かく分析しました。

時系列で見ると、未婚化・晩婚化はほぼすべての区で進行しており、出生

率も低下傾向にあります。女性の就業率は全体的に上昇していますが、区により上昇幅は異なります。また、神戸市内の女子大学生対象のアンケートでは、多くの女子学生が自宅からの通勤を就業のポイントにおいており、教育などの分野で在籍学部と就業先のミスマッチが起きている可能性があります。

こうした経年変化や住民の意識を的確にとらえ、区の特徴に応じた子育て環境や就業の場の提供、婚活支援等の政策を講じる必要があります。

TOPIC 1

Japanese Corporate Management

「日本企業を理解するセミナー」を開催しました。

～海外人財(元留学生)の日本企業での働き方・活躍について～

APIRでは研究成果報告とタイムリーな話題をからめたシンポジウムやフォーラム等を開催しています。

自分の努力で
能力を生み出せる人が“人財”

APIRの研究調査「高度外国人材受入促進のための実践的研究」で得られた「日本企業の経営者や就職した先輩との交流会を」という留学生の声を受け、留学生と企業の採用担当者を対象に、近畿経済産業局と共同で開催しました。

株式会社中央電機計器製作所の畑野吉雄会長が「日本企業が期待する留学生」と題して基調講演、「留学生は企業カラーに慣れること。

ぜひインターンシップの経験を」、「人生を決めるのは能力ではなく行動力(考動力)。大きな夢がすべての原動力」等、示唆に富み、また元気の出るお話をされました。

次に日本企業で活躍する先輩としてサラヤ株式会社海外事業本部のミハイル・ドゥブロフカ統括部長、エバオン株式会社海外事業部の黄小平次長が講演。ドゥブロフカ部長は「入社後の困難を乗り越えられるかどうかは日本を好きかどうか」、黄次長は「就職の目的を明確に。自分の専門にこだわらない。業種業態を

絞り込まない」、「会社では角が立たないようにしながらも積極的に」とアドバイスされました。

後半は参加者が11グループに分かれてディスカッションし、希望したグループが結果を発表。「日本では和と独創性のバランスが取れる人、自分の努力で能力を生み出せる人が“人財”という結論が出されました。(文責:事務局)

開催日: 2015年2月27日
会場: グランフロント大阪
主催: 一般財団法人アジア太平洋研究所、
経済産業省 近畿経済産業局
協力: グローバル人材活用運営協議会



TOPIC 2

第53回 関西財界セミナーに参加しました。

2月5日～6日、第53回関西財界セミナーに宮原秀夫所長、澤 昭裕副所長、稲田義久センター長が参加しました。

宮原所長は第2分科会「健康・医療を支える魅力あるまちづくり・意識づくり」に、澤 副所長は第3分科会「国土の新たな発展～一極集中の是正に向けて～」に、稲田センター長は第1分科会「世界最先端の健康・医療イノベーション拠点への成長と企業の発展」に参加。積極的に発言を行い、APIRの存在感を示しました。



宮原所長
「インフラづくりには大学もアイデアだけでなく費用負担を」



澤 副所長
「都心と地方で人口の奪い合いをするのではなく共有を」



稲田センター長
「関西は全国より高齢化も生産年齢人口減少も速い。独自の成長戦略を」

TOPIC 3

一 研究員だより
研究員が博士号を取得しました!

岡野光洋研究員、林 万平研究員が相次いで博士号を取得しました。詳細は以下のとおりです。

岡野 光洋

- ① 関西学院大学大学院経済学研究科博士課程 後期課程経済学専攻(博士号(経済学))
- ② 論題「為替レート・金融政策とマクロ経済調整」
- ③ 取得日: 2015年2月14日



林 万平

- ① 同志社大学大学院総合政策科学研究科 総合政策学専攻(博士号(政策科学))
- ② 論題「自然災害被害とその社会的要因に関する実証分析-安全安心社会に向けて-」
- ③ 取得日: 2015年3月5日



岡野研究員が大阪学院大学講師に

岡野光洋研究員が4月から大阪学院大学に転出します。所属は変わりますが、新年度も「新しいマクロ経済モデルの開発・応用試行」のリーダーとして、APIRの研究調査にたずさわります。